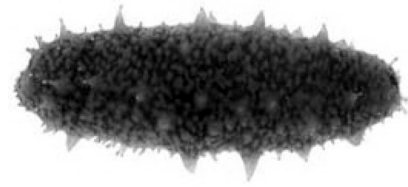


マナマコ

Apostichopus japonicus

地方名

あかなまこ、あおなまこ、
くろなまこ



生態

- ①寿命：7～8年程度
- ②成熟：雌130g以上、雄87g以上
- ③産卵期：4～7月（水温13～16℃前後）
- ④分布：沖縄県を除く日本全国のほとんどの沿岸の、潮下帯から水深40m前後までの砂礫、転石、岩盤域に生息する。
- ⑤生態：ふ化～稚ナマコに変態した直後までは植物プランクトンを餌とし、その後は浮遊珪藻や付着珪藻、砂泥中の有機物などを餌とする。水温約20℃以上の間は、岩盤や転石などの隙間で、夏眠と称される休眠状態になる。夏眠期以外には、岩盤や転石などの隙間や表面、スゲアマモ藻場など藻草類の株元に生息する。
- ⑥成長：ふ化した幼生は浮遊生活し、2～3週間後に稚ナマコに変態する。陸奥湾では1歳で30g前後に成長するが、個体による成長差は大きい。その後は、夏に夏眠のために体重が減少し、水温が低下する秋以降に体重が回復し、再び成長を始めるという季節変化を繰り返しながら成長していく。雌は3歳頃、雄は2歳頃から繁殖に参加するようになる。

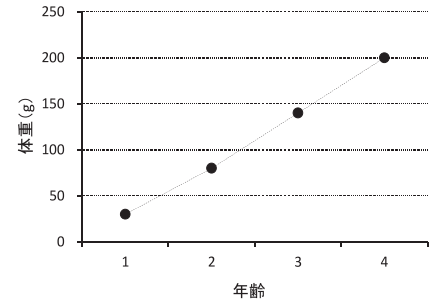


図 青森県におけるマナマコの成長

主な漁業

本県の各沿岸で漁獲されるが、陸奥湾が県漁獲量の大半を占める。けた網、たもを使った底見、潜水等で漁獲され、冬季が漁期の中心となる。

漁獲の動向と水準

昭和50年代に400～900トンで推移していた漁獲量は、昭和63年の293トン以降急増し、平成19年には最高の1,653トン記録した。その後は1,200～1,500トン台の範囲で推移しており、平成27年の漁獲量は前年をやや下回る1,161トンであった。

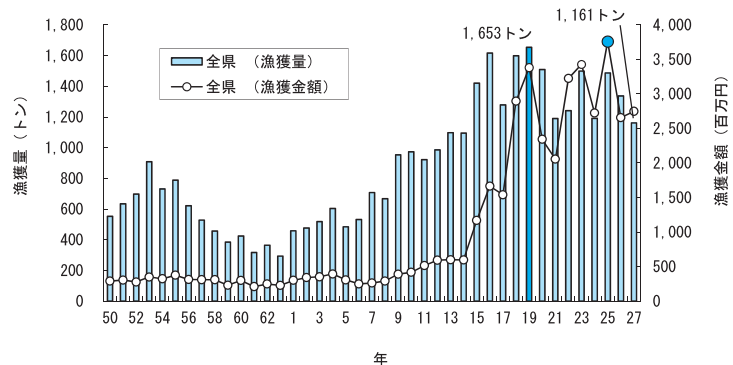


図 青森県におけるマナマコの漁獲量及び漁獲金額の推移

資源を上手に利用するために

- 資源管理計画（むつ市・横浜町漁協 平成10年3月）
 - ・操業区域の制限、稚ナマコの保護などを定めた。
- 青森県ナマコ資源管理指針（平成22年3月）
 - ・小型個体の再放流や禁漁、休漁期間の設定などを定めた。

☆青森県海面漁業調整規則による採捕の禁止期間（5月1日～9月30日）や漁具の制限（なまこけた網：網の目合6cm以上）を遵守し、安定した漁獲につなげることが必要。陸奥湾内において平成26年度からなまこ固定式さし網が知事許可となった。

☆ホタテガイの貝殻を海底に敷設することで、稚ナマコの住み場を造成できることが分かっている。

トピックス

- ・マナマコに標識をつける代わりに、こんにやくから作った擬似ナマコを散布することで、マナマコの資源量を計算する方法が開発された（乾燥ナマコ輸出のための計画的生産技術の開発の成果）。
- ・アワビ種苗生産施設等でナマコ種苗を安定的に生産するための「ナマコ種苗生産マニュアル」及び効果的にナマコ資源を増やすための「ナマコ種苗放流マニュアル」を作成した。

